

狭域ブロードキャストによる 新行動予定通知システムの提案

応用編

特願2010-189293 T o D o 項目報知システム

機器のコントロール

「行動予定」の対象は人間に限りません。
送信される属性情報を元に機器のコントロールも可能です。

たとえば自動車に受信機を取り付けます。

「灯火箇所」という属性を受信した場合に自動点灯するようにしておきトンネルの入り口で属性を送信すれば、トンネル内での無灯火を防ぐことができます。

携帯電話向けとして、病院の出入り口や映画の上映開始前、公共の乗り物の中で「マナーモード推奨」という属性を送り、自動的にマナーモードへ移行させることも可能になります。

※携帯電話の設定に「指示に従う」「受信の通知のみ」等を用意することで、運用形態をある程度ユーザの自由にさせることもできます

「航空機内では自動的に電波OFFモードへ移行させる」ことも可能ですね。

位置トレースに

～あの日のあの時間、自分はどの辺りにいたんだろうか？～

～あのお店に行ったのは何時頃だっけ？～

受信した属性を日時とともに自動記録しておくことで、行動記録にも使えます。

～ココハドコ？～

エレベータや踊り場、給湯室、各フロアに送信機を設置し「ここは2F」等の属性を送れば、受信機を搭載したロボットの自立移動にも応用できます。

また、火災などの煙で視界が悪いときでも、受信機を持っていれば自分の現在地を知ることが出来ます。

消防士に特殊な端末を持たせ、端末の識別コードと受信した属性を別の方式で送信できるようにしておけば、指揮所では誰がどの辺りで作業をしているのかを把握することも可能になります。

アシストとして

視力が弱い方などのアシストとして、横断歩道前や分岐点から「歩道」などの属性を送信し、受信機側で音や振動に変換してユーザに位置・状況を知らせることが出来ます。

緊急時用として、特定の属性を受信した場合に携帯端末側からビーコン信号などを発信させるという機能も実現できます。

万が一生き埋めになったときでも、「ビーコン送信」属性を送って携帯端末に強力なビーコン信号を送信させることでその位置を特定するといったことも可能です。

生き埋めでなくとも、山で遭難し、そこが携帯電話が使えない場所であっても、ヘリコプター等に送信機と高感度の受信機を搭載して出動することが出来れば、遭難者を発見することが出来るかもしれません。

イベント処理として

駅やバス停などで「到着・通過」等の属性を送信して、乗り物の発着を知らせることも可能です。

また、テキスト情報を乗せられるように属性情報を工夫すれば、その駅・停留所の時刻表を端末に取り込むことも可能です。

時刻表を写し取ったり、通信回線を使って交通機関のサイトにアクセスする必要もなくなります。

防災用の属性は広範囲に、強い出力で送信することにより、地震や津波などへの早期警戒をユーザへ伝えることができます。

受信機が搭載されていれば携帯電話でなくとも情報を得ることが出来ます。

※携帯電話、TV(ワンセグ含む)を見ていなくても知ることが可能

自動スケジュール登録

WEBサイトやチラシにQRコードなどで属性コードとテキスト情報をデジタル化して掲載しておき、それをカメラで撮影させることで行動予定を簡単に登録出来るようにしておきます。

このようなことが出来れば、煩わしい入力の省力化と入力ミスを減らせます。

警告システムとして

危険、もしくは注意が必要な場所・状況を通知するシステムにも応用できます。

例えば最近よく耳にする高速道路での逆走。

多くのケースは、サービスエリア (SA) やパーキングエリア (PA) から出るときに間違っ「入り口」へ向かっているようです。

そこで本線からSA/PAへの通り道に発信機を複数設置し、本線に近い方の発信機から「エリア行き 1」という属性を、SA/PAに近い方に「エリア行き 2」という属性を発信させます。

車に搭載した受信機・システムは、受信した順番が1→2ならなにもせず、もしも「2→1」の順で受信した場合は逆走である可能性が高いとして警告を発するようにしておけば、ドライバーへ逆走の注意を促すことができます。

また特定区間に逆走車が存在することを伝える属性を発信し、走行中のドライバーに逆走車が居ることを知らせることも。

応用編

-完-

初版 2010/10/01

第二版 2010/10/12

特願2010-189293 T o D o 項目報知システム

COPYRIGHT (C) 2010 RallySystem Co., Ltd